

オープンセミナー

# 「日本企業の環境力と社会的責任投資」

2009年6月30日  
三菱UFJ信託銀行  
投資企画部

# SRI(社会的責任投資)への理解

社会的責任投資

少子高齢化

サステナビリティ

パフォーマンス?

財務+CSR

CSR

不祥事

SRIと聞いて何を思い浮かべますか?

アルコール

~~たばこ~~

社会貢献

責任投資

地球温暖化

持続可能性

倫理投資

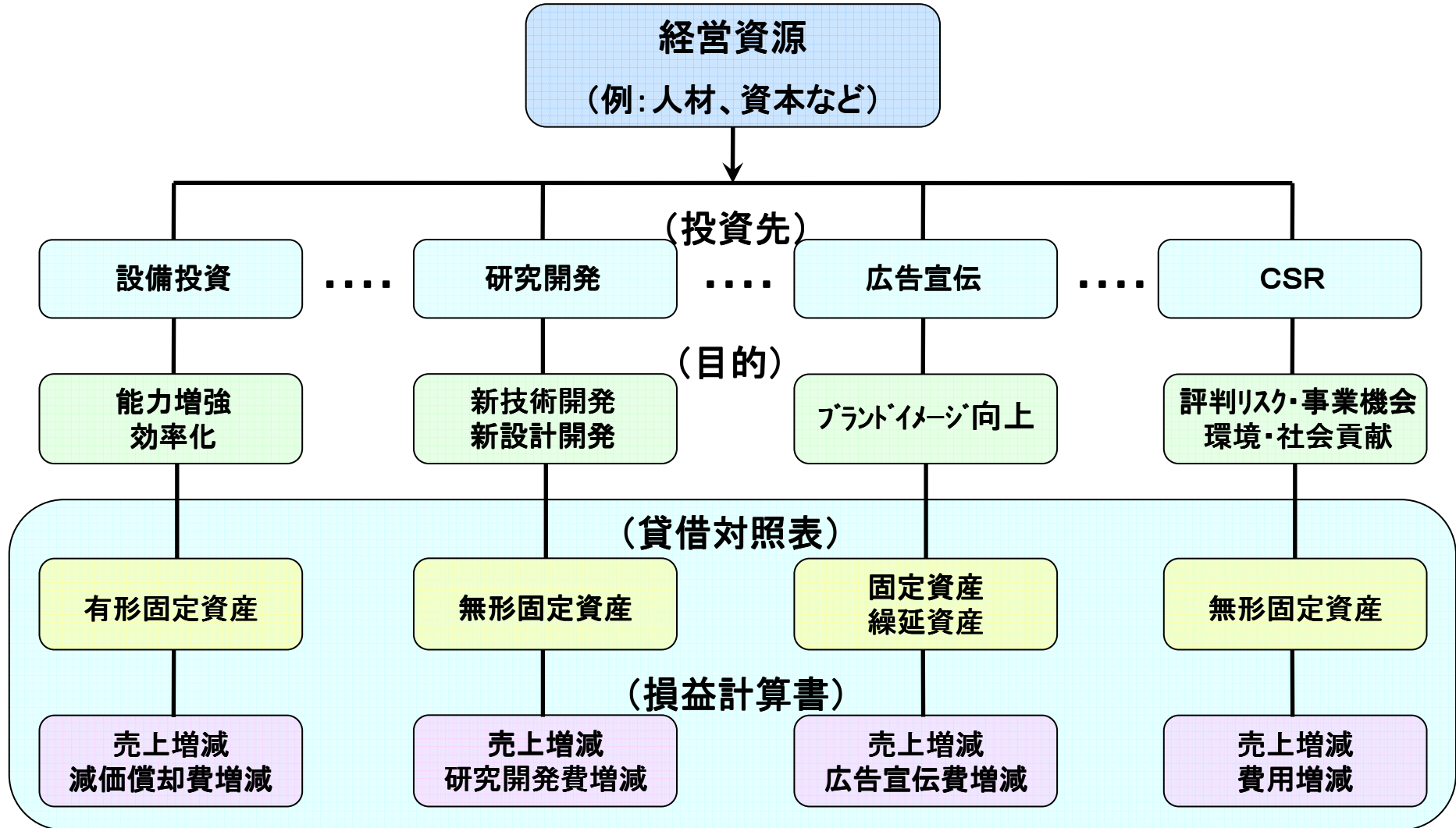
ESG

貧困

ガバナンス

トリプル・ボトムライン

# CSRも経営資源の配分先の1つ



(出典) 三菱UFJ信託銀行作成

# 従来から着目する「影響度」の大きさ

## ＜従来からの企業評価事例＞

- ① マクロ分析  
経済成長率、財政収支、人口動態など
- ② セクター分析  
業界成長率、価格動向、競合、技術動向など
- ③ 企業分析  
売上成長率、利益率、バランスシート分析など

+

経営陣の質や、経営方針、実績、組織体制など



定量面および定性面も、将来の企業業績の判断に重要な項目を評価

(出典)三菱UFJ信託銀行作成

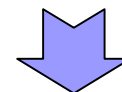
## ＜CSR活動の評価事例＞

- ① マクロ分析  
気候変動、人口動態、グローバル化など
- ② セクター分析  
業種規制、事業特性など
- ③ 企業分析  
環境製品、技術力、CSR施策など

+

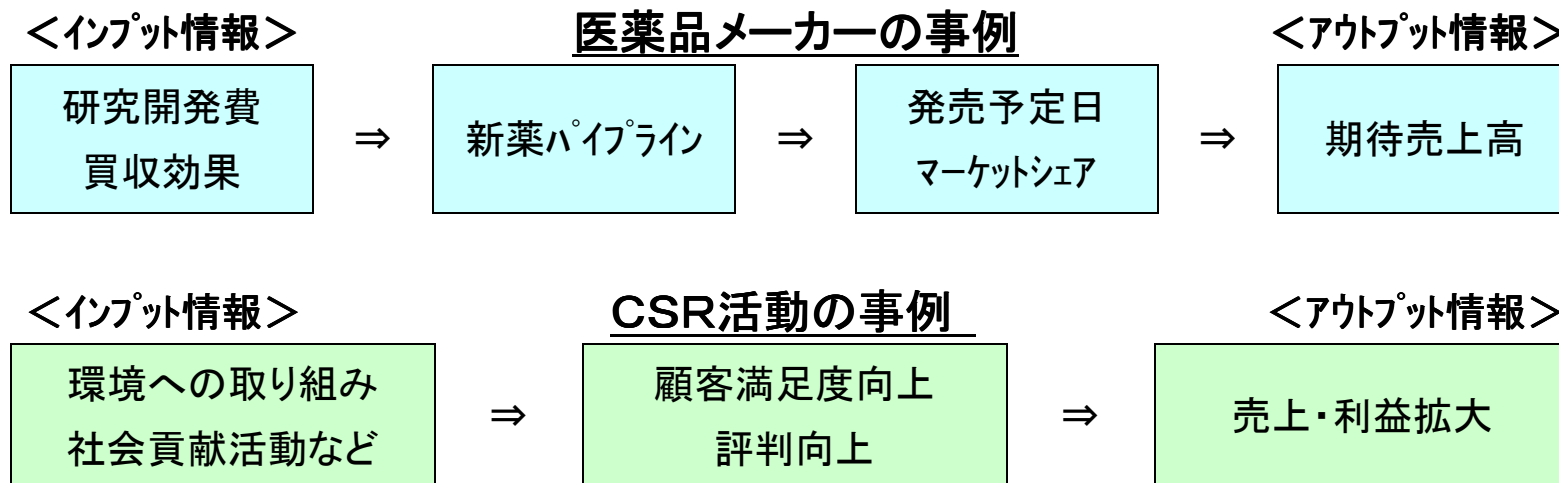
+

CSR戦略、取り組み実績、推進体制など



CSR評価も、企業の評価に重要な項目に着目することが重要

- ❑ 企業の取り組みは、最終的に全て企業業績に結びついていく
  - ✓ 無形資産の企業評価の正確性を高めていくためには、企業業績に繋がる道筋を「ロジック」を立て説明することが効果的。
  - ✓ 企業のCSRの取り組みも企業業績とのリンクを示すことができる。CSRへの取り組みは、これまで投資家の関心がなかっただけの話。
- ❑ 企業業績の要因分析は、通常の財務分析でも難しい
  - ✓ 企業業績は、企業の複数年にわたる様々な取り組みの成果として実現される。企業の取り組みの効果を要因分析することは、通常の財務分析でも難しい。CSR活動だけが特別なものではない。



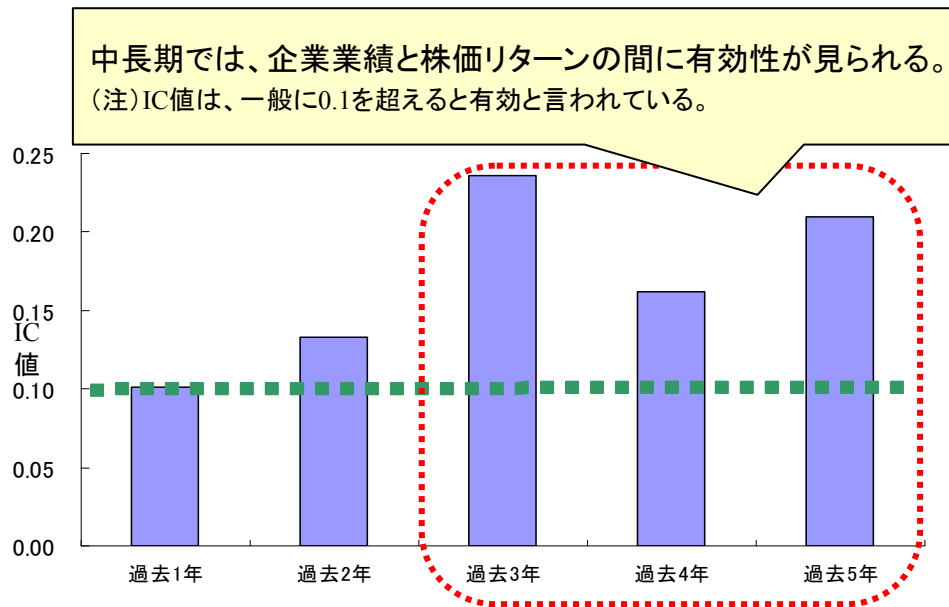
(出典) ニューヨーク大学Baruch Lev教授 講演内容を基に三菱UFJ信託銀行作成

# CSRの考慮は企業業績見通しの蓋然性を向上

## ➤ 企業業績と株価収益率の関係

＜分析方法＞

- ・対象：東証1部2008年3月末決算企業
- ・分析：キャッシュフローの増減率(過去1年～5年)と株価収益率の順位相関(IC値)を計算(基準日:08/3末)

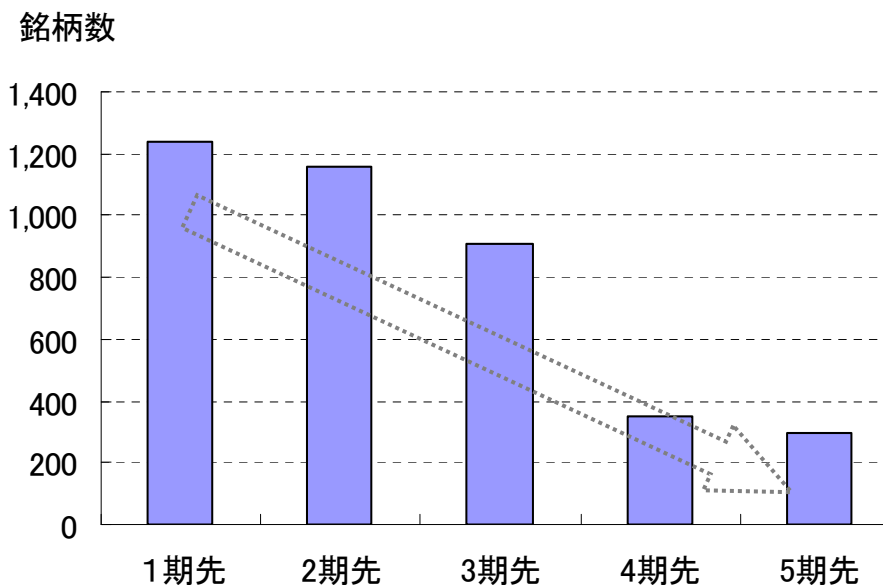


(注) 日経NEEDSより三菱UFJ信託銀行作成

## ➤ セルサイドアナリストが業績予想している銘柄数

＜分析結果＞

- ・短期：業績予想している銘柄数が多く、情報の効率性が高い
- ・中期：業績予想している銘柄数が少なく、情報効率が低下



(注) IFISより三菱UFJ信託銀行作成(対象:東証1部)

## 証券信託契約等のリスクおよび手数料等について

### 元本欠損のリスクについて

- 証券信託契約等とは、(事前に委託者様と協議させていただいた範囲で)国内外の株式・債券をはじめ、投資信託受益証券や集団投資スキーム持分などの有価証券、貸付金、先物取引、オプション取引、スワップ取引および為替取引等幅広い運用対象資産(もしくはその一部分)で運用する金融商品です。
- 信託財産に組み入れる運用対象資産については、株式相場、金利水準、為替相場等の変動や、有価証券等の発行者の業務や財産状況の変化により、運用対象資産の価格や評価額が変動することによって損失が生じ、信託財産の時価総額が信託元本を下回る可能性があります。

### お客様にご負担いただく手数料等について

- 信託報酬……信託報酬額は信託財産の額に対して所定の信託報酬率を乗じる方法で算出し、収益率計算期毎に信託財産から受託者が受領いたします。また、信託財産において証券貸借取引を行うときは、前述の信託報酬と別に貸借料等に所定の比率を乗じた額を信託報酬として信託財産から受託者が受領します。なお、個別の報酬率(上限を含みます)および計算方法については、お客さまからご提示頂く信託財産の運用に関する運用指針等に基づき、お客さまと弊社で協議のうえ決定致しますので、予め表示することができません。
- その他の費用……その他、証券信託契約等において直接・間接にお客様にご負担いただく費用として、信託財産を運用する際に金融商品取引業者等に支払う手数料、信託財産により取得する投資信託受益証券や集団投資スキーム持分および信託受益権等の運用者・管理者に対する報酬や手数料、その他信託財産の運用・管理等に要する費用などがあります。なお、運用状況等により変動する為、具体的な金額(種類毎の金額および合計額もしくはそれらの上限額)および計算方法を表示することはできません。

## 終わりに

- 本資料に記載している見解等は本資料作成時における判断であり、経済環境の変化や相場変動、年金制度や税制等の変更によって予告なしに内容が変更されることがありますので、予めご了承下さい。
- 本資料は、当社が投資家への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載している情報は、信頼できると判断した情報源から入手したものです。その内容の正確性・完全性の保証は致しかねます。
- 本資料の分析結果・シミュレーション等を利用したことにより生じた損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に記載しているファンドに組入れる個別銘柄のCSRレーティングは、守秘義務があるため、弊社からの開示は致しません。
- 本資料に記載しているファンドは、ユニバースのうち相対的にCSRレーティングが高い銘柄群を抽出したうえで、当社がアナリスト評価・株価評価・定性判断等をもとに付与する総合レーティングに従ってポートフォリオを構築するため、各銘柄の組入れ比率は必ずしもCSRレーティングの高低を反映するものではありません。
- 本商品への投資判断にあたっては、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料の著作権は三菱UFJ信託銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。
- 弊社は、日本証券業協会、社団法人金融先物取引業協会に加入しています。

本資料に関するお問い合わせ先  
三菱UFJ信託銀行 投資企画部  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号  
加藤 正裕 / 03-6250-4396  
(受付時間: 9:00~17:00(土日・祝日除く))